


# 植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第2号

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。



## 《地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的》

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、進捗状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

## 第1回 植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

◆令和2年10月16日(金) 19:00～

◆植田市民行政センター 2階大会議室

### ＜議事＞

- 1 会議の公開について
- 2 地域まちづくりビジョンについて
- 3 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
- 4 地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況について
- 5 今後の予定について

## ＜植田地域の将来像＞

**自然があふれる 住みたくなるまち わさだ**

会議では、事務局から植田地域まちづくりビジョンに掲げる全事業の取組状況を報告し、これをもとに意見交換を行いました。本通信では、主に事業の推進が見られた事業や質疑応答、意見交換の中から主なものを抜粋して掲載しています。

## ◆地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況(抜粋)◆

### 【提言1】誰もが安全に安心して生活できる住環境の整備

#### (事業名) 道路整備 (安全・安心な道路整備)

- ◆敷戸弾薬庫付近の住民が災害や有事の際に迅速に避難するための道路拡幅。
- ◆歩道や街路灯の整備など歩行者にやさしい道路整備を進める。

#### ＜事業の取り組み状況＞

(行政) ・避難時のための道路拡幅として曲敷戸団地線の整備を行っており、今年度以降も引き続き用地交渉及び用地取得箇所の工事を実施していく予定であり、令和4年度の完成を目指している。

- ・歩行者にやさしい道路整備として、自治会が行う防犯灯・防犯カメラの設置に対する補助や通学路を中心とした整備も継続的に行っている。

(地域) ・自治会は必要に応じて防犯灯や防犯カメラの設置を行っている。

- ・自治会単位や学校が実施する「通学路の安全点検」において、安全対策が必要とされた箇所について要望を県や市に行っている。



写真上：賀来小中学校の通学路  
「歩行空間の確保」

#### (事業名) 高齢者・障がい者等の防災対策

- ◆公営住宅の居住環境を整備し、若年層の居住者を増やすことで災害時にも円滑に避難できる体制を構築する。
- ◆災害時の備蓄物資確保の取組や一人暮らしの高齢者、身体障がい者への支援体制の確保。

#### ＜事業の取り組み状況＞

(行政) ・現在、市営敷戸東・南住宅について集約建替えの第二期工事を行っており、今年度の完成を目指している。  
・備蓄物資については、既に市内に分散備蓄しており、植田地区においても支所や小中学校1か所に備蓄を行っている。また、高齢者等への避難支援体制の確保については、地域での支援体制が欠かせないことから自主防災組織の活動を支援するとともに広報活動や防災訓練を通じ、住民の意識の醸成に努めている。

(地域) ・令和元年度に植田地区の32の自主防災組織が補助金を利用し物資の備蓄を行っている。  
・毎年、防災訓練としてアルファ米の炊き出しや避難所運営等の実技訓練を自主防災組織単位で実施している。  
・自治会組織で避難行動要支援者に対する状況確認を行っている。

#### ＜会議で出された意見等＞

- ・市の指定避難所ではないが、校区公民館に備蓄物資の配備をしてほしい。  
→市は指定避難所に分散備蓄しており、地域で備蓄物資を配備する場合は「自主防災組織活動事業費補助金」を活用してほしい。
- ・消防団、防災危機管理課、河川・みなと振興課の役割分担を明確にし、減災できる体制づくりと、自治委員や自主防災組織と深い繋がりを構築し防災に取り組んでほしい。  
→各組織間の情報共有等により、連携強化を図り、役割分担を明確にすることで防災体制の整備・充実に努めたい。また、自治委員や自主防災組織とは引き続き訓練支援等により繋がりを強化していきたい。



#### (事業名) 住宅耐震化の促進

- ◆旧耐震基準の住宅所有者に対する市の補助金の活用事例の広報や耐震補強を実施しないことによる危険性をもっと広報し、安全な住宅を増やす。

#### ＜事業の取り組み状況＞

(行政) ・木造住宅の耐震診断、耐震改修に対する補助制度について、地区住民への説明会や新聞・広報を活用したPR活動、戸建て住宅を対象にパンフレット等の送付を行っている。

(地域) ・令和元年度に植田地区の7自治会が耐震診断・耐震改修の説明会を実施している。

(個人) ・令和元年度に21件の補助金の活用があった。

#### 地域の取り組みの発表

#### 宗方校区避難所運営訓練

宗方校区の13自治会(宗方校区いきいきまちづくり協議会主催)の避難所運営訓練を11月29日に初めて実施する予定。(※実施済)

今後は『校区防災協議会』の設立を目指していく。 写真右：宗方校区避難所運営訓練の様子



### 【提言2】快適で魅力あるまちづくりの促進

#### (事業名) 農地の活用・保全

- ◆市街化区域と市街化調整区域の区分変更や用途地域の変更も含めた見直し。
- ◆耕作放棄地に対して土地の利便性による優先順位をつけて見直す。

#### ＜事業の取り組み状況＞

(行政) ・農地を貸したい人と借りたい人の中間的な受け皿となる県中間管理機構を活用し、担い手の農地集積を図っている。  
(地域) ・植田地区では、中尾自治区他10集落で人・農地プランが作成されており、担い手への農地集積等が図られている。

#### ＜会議で出された意見等＞

- ・地域に耕作放棄地が増えないよう、担い手を支援できる市独自の取り組みがほしい。  
→担い手や集落に対して耕作放棄地の復旧にかかる費用の一部を補助する市独自の新たな事業を制度化している。

#### 地域の取り組みの発表

#### 三世代ふれあい農園事業 (耕作放棄地の活用)

寒田校区では三世代交流を図るとともに自然景観の維持、継承にも寄与することを目的に、令和3年度から休耕田を活用し、サツマイモの栽培や収穫体験を行う事業を開始する予定。

#### 地域の取り組みの発表

#### おでかけ交通の運営 (地域独自の交通網)

富士見が丘自治会連合会では平成27年3月からタクシー会社と契約し、高齢者の引きこもりの防止や買い物支援、通院支援等のための「おでかけ交通」事業を実施しており、好評を得ている。

### 【提言3】 地域資源を活用した子育て環境の整備

#### (事業名) 七瀬川自然公園の整備

- ◆河川プールの整備やバーベキューなどレクリエーション機能の充実や健康器具の設置等により、若者から高齢者まで、多世代が集いやすい環境を整備。
- ◆地域の防災訓練ができる環境整備。

#### <事業の取り組み状況>

- (行政) ・バーベキューエリアの整備については平成31年3月に、また、遊具広場の遊具のリニューアルについては令和2年3月に完了している。
- (地域) ・健康器具の更新など新たなニーズ調査を行う予定である。
- ・公園を活用した校区単位での防災訓練の実施に向け検討を行っている。



写真右：整備されたバーベキューエリア

#### <会議で出された意見等>

- ・公園内に河川プールの設置をしてほしい。
- 河川管理者である国土交通省から「河川敷が狭い等、河川の形状から集中豪雨時の急激な水位上昇などが予想され、安全上の問題が大きい。」との回答を受けている。

#### 《今後の方向性》

- フォローアップ会議において「自然があふれる 住みたくなるまち わさだ」の実現のためには河川プールが必要であり、「再考してもらいたい」との委員の総意により、引き続き行政に対して働きかけを行っていく。

#### (事業名) 子どもの教育環境の整備

- ◆植田地区の老朽化した学校を多様化する教育環境に対応した施設として、リノベーション及び改築を行う。

#### <事業の取り組み状況>

- (行政) ・「大分市教育施設整備保全計画」に基づき整備を進めており、令和元年度には寒田小学校体育館長寿命化改修工事及び植田小学校エレベーター設置工事を完了した。現在、横瀬小学校校舎の長寿命化改修工事を実施している。
- (地域) ・横瀬小学校の余裕教室が開放されており、集会室、ギャラリー、音楽練習室など、様々な地域活動の拠点として利用している。



写真右：エレベーターが設置された植田小学校

### 第2回 植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

- ◆令和2年11月18(水)19:00～
- ◆植田市民行政センター 2階大会議室

- 《議事》
- 1 会議の公開について
  - 2 第1回地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の質疑について
  - 3 分科会
  - 4 分科会報告
  - 5 会議総括
  - 6 今後の予定について

植田地域まちづくりビジョンに掲げられた各事業から3点に絞り、各事業の円滑な推進に向けて意見交換を行いました。分科会で出た意見やアイデア(抜粋)をテーマ別に掲載しています。



#### テーマ① 「防災訓練の実施について」

地元の消防団や小・中学校と協力して実施すれば、若い世代や保護者なども参加しやすいのではないかな。

地域における防災士の活動が目に見えないこと、防災訓練の参加者が固定されている気がするので、幅広い世代の参加が必要ではないかな。

学校や企業は義務だからやっている。自主防災組織も訓練を義務化する必要があるのではないかな。

単独の自主防災組織で訓練を実施することが難しい場合でも、駕野校区のように校区全体で防災訓練を実施すると、規模の小さい自治会・自主防災組織も参加ができるようになるので、校区の中で連携していく事も一つの方法ではないかな。

賀来の「かた屋消防団<sup>(注)</sup>」の取り組みは子供のころから防災意識を持てる非常に良い取り組みと思う。他の地域でもやっていくことはできないかな。

(注)…小中学生が、防災の知識や技術、自助や共助の精神を身につけ、将来的に地域の防災力を高める人材となるよう、消防団が中心となって育成する取り組み

防災訓練の実施率100%を目指して取り組んでいきましょう！

#### テーマ② 「避難行動要支援者への支援について」

災害時に一人では避難することが困難で、避難に支援が必要な方については、個別計画があるようだが、画一的ではなく個々の対応方法をより詳しく記載した方がよいのではないかな。

行政・地域のサポートは当然必要であるが、要支援者に対して「自助」を促すことも必要ではないかな。



災害時の避難支援の体制づくりを進めていきましょう！

#### テーマ③ 「地域活動の活性化について」



駕野や宗方のように校区の各種団体で構成する「まちづくり協議会」を立ち上げて、各自治会はその組織の一つとして参画するような形で、校区全体で地域づくりを進めていくのも一つの方法ではないかな。

高齢者の方が生活しやすく、外出しやすい環境を作ることで、若い人だけでなく高齢者を含めた地域の活性化になっていくと思う。

雇用の創出や教育の充実を図れば自然と人が集まり、活性化するのではないかな。

若い世代に住みやすい、住みたいと思ってもらうためには、人が集まる七瀬川自然公園の整備と再開発がポイントになると思う。

生活環境の変化により、集団活動より個人活動を望んでいる方が多いため、地域行事への参加を求めることが難しくなっているが、地域で行われている「歩こう会」や「三世代交流事業」などの行事は重要だと思う。



つながりを大切にしながら地域づくりに取り組んでいきましょう！

#### 分科会のまとめ

##### ◆ 防災訓練の実施について

自主防災組織の規模や状況が違うこともあり、防災訓練の実施状況については格差があり、実施ができない自主防災組織をカバーするためには、校区全体での防災訓練を実施する事も必要である。また、訓練自体も魅力ある誰もが参加したいと思うような内容にすることにより、有意義な防災訓練ができるようになる。

##### ◆ 避難行動要支援者への支援について

要支援者と地域の支援者が連携を密にし、具体的な個別計画を共有することにより、有事の際に対応が可能な関係が構築できる。

##### ◆ 地域活動の活性化について

住民の生活環境は多様化しており、地域活動に参加してもらう事が難しくなってきたが、現在多くの地域で行われている交流事業等は非常に重要である。また、今後まちづくりを行なう上で、少子高齢化は避けて通れない問題であり、若い方に植田に住んでもらう事や、高齢者が地域活動に参加する事も活性化につながる。若い方から高齢者まで安心・安全な生活ができる環境の整備が重要である。

#### 今後の予定

##### 《「ふれあい市長室」～あなたの地域のまちづくりビジョン～》

植田地域まちづくりビジョンの活動団体の中から、「おでかけ交通」を運営している富士見が丘連合自治会が開催する予定で、現在日程を調整中です。

今後も「自然があふれる 住みたくなるまち わさだ」の実現に向けた取り組みを推進していきます！

